

21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

PRESS RELEASE

杉本博司 歴史の歴史

会期：2008年11月22日(土)～2009年3月22日(日)



金沢21世紀美術館
21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

歴史の歴史

アートとは技術のことである。眼には見ることのできない精神を物質化する為の。

私のアートとは私の精神の一部が眼に見えるような形で表象化されたものである。いわば私の意識のサンプルと言っても良い。私はアーティストとして長年この技術を磨くことを心がけてきた。

アートの起源は人類の起源と時を分ち合う、それは人間の意識の発生をもってその始源とするからだ。私は私の技術を磨く過程の中で、学ぶべき先人の技術を体得する為の手本が必要とされるようになっていった。手本は先人が到達することができた地平のサンプルと呼び変えても良いだろう。一つのサンプルを入手してその技術を会得すると、会得されたその精神は又次のサンプルを欲するようになる。一つのことを理解することとは、その奥にさらに深い未知があるということを理解することだ。こうして私のサンプル収集は連鎖反応を起こして、どこへ行くとも知れず漂流するようになった。

ここに集められたサンプルは、私がそこから何かを学び取り、その滋養を吸収し、私自身のアートへと再転化する為に、必要上やむを得ず集められた私の分身、いや私の前身、である。私はそれらのサンプルから、過去が私の作品にどのように繋がってきたのかを類推し、その現場を検証するという空想に遊ぶようになった。旧石器時代の石器を握ってみると私の手のひらにぴたりと収まる。私は旧石器時代人の革命的な技術を体感するのだ、蒙昧から意識への。そしてより鋭利になった新石器時代の石器を手にとってみる。私は一瞬にして数十万年の人類の経緯を諒解する。私はエジプトの死者の書に描かれた象形文字と神々の像に見入る。死者を覆っていたであろうこの一枚の麻布が五千年という時間の物差しを私に突きつける。ゆっくりと流れていた古代の時間は急速に加速しながら現在の私に向かって流れて来るように思える。昔千年かかった変化が今は数十年で達せられてしまう。時間の矢は今も加速を続け、ある臨界点に向かいつつあるようだ。

天地開闢以来、幾多の文明が栄え滅びてきた。その度に歴史は書かれ又書き換えられてきた。歴史とは生き残った者が語り継ぐ勝者の歴史に他ならない。語り継ぐ者のいなくなった敗者の歴史は遺物となってその内に閉じ込められ、私に何かを語りかけてくる。数十億年前に絶滅してしまった生命の種が化石となって私に語りかけてくるように。こうして私は歴史から一步距離を置いて、私が収集してきた遺物を眺め暮らすようになった。

私の集めた遺物達は、歴史が何を忘れ、何を書き止めたか、そんな歴史を教えてくれる。

杉本博司

杉本博司「歴史の歴史」展 企画趣旨

現代美術の写真表現において第一線で活躍する杉本博司(1948-)は、2003年より「歴史の歴史」という表現を行ってきました。杉本の収集品、自身の写真作品が併存する「歴史の歴史」は、現在までアメリカやカナダを巡回しながら、杉本の収集活動と制作活動が反映され、多様な変貌を遂げてきました。《法隆寺 伝来裂》、《正倉院 伝来裂》、《紺紙銀字華嚴經 一卷》—現在の杉本のコレクションには、考古物や美術という一般的な枠組みで価値づけられているものから、それ以外の宇宙食、宇宙写真、18世紀医学書、第二次世界大戦時のタイム誌といったものが含まれます。本展「杉本博司 歴史の歴史」では、これらの作品とともに新作《放電場》を含む杉本自身の写真作品が展示され、新たな「歴史の歴史」という表現が映し出されます。特に、杉本の収集品である天平期建立の当麻寺東塔の古材と杉本の新作写真によって構成されるインスタレーション作品《反重力構造》は、杉本の「歴史の歴史」という世界像そのものを物語ります。

金沢21世紀美術館の9つの独立した展示空間は、これらの作品世界の多様な形相を浮き彫りにすると同時に、杉本の歴史観、世界観、そして創造性の有機的な関係を総合的に展観する場となるでしょう。

展覧会の特徴

「歴史の歴史」を総括する展覧会

杉本博司は2003年より「歴史の歴史」という表現活動を行ってきました。この「歴史の歴史」は、アメリカ、カナダの様々な美術館を巡回しながら、その都度変貌してきました。本展では、杉本の新規収集品や自作が含まれる新たな「歴史の歴史」が展開、これまでの「歴史の歴史」を総括する大規模な展覧会になります。

金沢21世紀美術館の展示室との美しいコラボレーション

本展は金沢21世紀美術館の9つの展示室(展示室5、展示室7～14)において、それぞれの展示室の特質を生かした展示が展開されます。特に、展示室8で展開される《反重力構造》は、奈良の当麻寺(たいまでら)をモチーフとした写真作品と当麻寺東塔に用いられていた古材等によって構成される作品です。12メートルという天井高を最大限に生かした展示が予定されています。

日本初公開の杉本博司作品

本展では日本初公開の杉本博司の写真作品が公開されます。《放電場》、《放電場 電飾》、《反重力構造》の「当麻寺写真」等、杉本博司の新たな表現が映し出されます。

近年の杉本コレクションが公開

杉本は現在も精力的に収集活動を行っています。近年では、宇宙食、宇宙写真、18世紀医学書、第二次世界大戦時のタイム誌といったものが収集されてきました。これらの新たな収集品が、自作の写真作品とともに、新たな「歴史の歴史」というかたちへ生まれ変わります。

展覧会概要

【展覧会名(日)】杉本博司 歴史の歴史

【展覧会名(英)】Hiroshi Sugimoto : History of History

【展覧会会期】2008年11月22日(土) - 2009年3月22日(日)

【開場時間】午前10時から午後6時まで

(金・土曜日は午後8時まで。1月2日、3日は午後5時まで)

【閉場日】毎週月曜日

(ただし11月24日(月)、12月22日(月)、1月12日(月)は開場)、
11月25日(火)、12月27日(土)～1月1日(木)、1月13日(火)

【主催】金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]、朝日新聞社

【協力】エルメス、ギャラリー小柳

【出品作品】約180点

【料金】一般1000円(800円)、大学生800円(600円)、小・中・高生400円
(300()内は団体料金(20名以上)及び前売りチケット料金)

前売りチケット取扱い:チケットぴあ

(Tel 0570-02-9999、展覧会チケットPコード:688-368)、
ファミリーマート、サークルK、サンクス、Yahoo!チケット

期間:10月22日(水)より2009年3月22日(日)まで

(ご予約は2009年3月19日(木)まで)

関連イベント

■アーティスト・トーク

日時:2008年11月22日(土)13:00～14:30(開場12:30)

会場:金沢21世紀美術館 レクチャーホール

定員:先着70名

(当日10時よりレクチャーホール前で整理券を配布します)

料金:無料(ただし、本展観覧券が必要)

■レクチャー「写真から見た杉本博司」

講師:秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)

日時:2009年1月11日(土)14:00～15:30(開場13:30)

会場:金沢21世紀美術館 レクチャーホール

定員:先着70名

料金:無料(ただし、本展観覧券が必要)

■レクチャー「歴史の歴史について」

講師:建畠哲(国立国際美術館館長)

日時:2008年12月21日(日)14:00～15:30(開場13:30)

会場:金沢21世紀美術館 レクチャーホール

定員:先着70名

料金:無料(ただし、本展観覧券が必要)

■レクチャー&ディスカッション 「歴史の歴史というかたち」

日時:2009年3月20日(金・祝)14:00～16:00(開場13:30)

会場:金沢21世紀美術館 レクチャーホール

定員:先着70名

料金:無料(ただし、本展観覧券が必要)

レクチャー

I 「杉本博司の写真行為」 14:00～14:30

竹内万里子(写真批評家・東京国立近代美術館客員研究員)

II 「杉本博司の日本美術史」 14:35～15:05

亀田和子(ブリティッシュ・コロンビア大学博士課程)

パネル・ディスカッション 15:15～16:00

「歴史の歴史というかたち」

・パネラー:竹内万里子、亀田和子

・モデレーター:村田大輔(金沢21世紀美術館学芸員)

■学芸員によるギャラリー・トーク

日時:11月30日(日)

12月12日(金)、12月20日(土)

1月17日(土)

2月6日(金)、2月21日(土)

3月15日(日)

各14:00～15:00

集合場所:金沢21世紀美術館 レクチャーホール

料金:無料(ただし、当日の本展観覧券が必要)

※関連イベントは、都合により変更になる場合があります。詳細は、美術館ウェブサイトをご覧ください。

作家プロフィール

杉本博司

1948年東京生まれ。1970年に渡米、1974年よりニューヨークに移り写真制作を開始。「劇場」「海景」などに代表される作品は、明確なコンセプトと卓越した技術で高い評価を確立し、世界中の美術館に収蔵されている。2000年ハッセルブラッド国際写真賞受賞。精力的に新作発表を続けながら2005年より初の回顧展が森美術館（東京）を皮切りに米国巡回、2007年からはヨーロッパを巡回。現在『新潮』にて「現な像」連載中。



受賞歴

- 2006 フォトエスパーニャ賞、マドリッド、スペイン
- 2001 国際写真賞、ハッセルブラッド基金、ヨーテボリ、スウェーデン
- 2000 名誉博士号、パーソンズ・スクール・オブ・デザイン、ニュースクール大学、ニューヨーク
- 1999 グレン・ディンブレックス賞、アイルランド近代美術館、ダブリン
第15回アンニアル・インフィニティ賞、国際写真センター、ニューヨーク
- 1988 毎日芸術賞、東京
- 1982 国立芸術基金 (NEF) 助成金、ワシントンD.C.
- 1980 ジョン・サイモン・グッゲンハイム記念財団奨学金、ニューヨーク
- 1977 C.A.P.S.奨学金、ニューヨーク

主な個展

- 2007 「杉本博司」NRW州立美術館(K20)、デュッセルドルフ(7/14-2008/1/6)／メンヒスベルク近代美術館、ザルツブルグ(3/8-6/15)／新ナショナルギャラリー、ベルリン(7/4-10/5)／ルツェルン美術館、ルツェルン(10/25-2009/1/25)
「服飾彫刻 京都服飾文化研究財団所蔵現代日本ファッション」サンフランシスコ・アジア美術館、サンフランシスコ
「様々な祖型 杉本博司新収蔵作品展」国立国際美術館、大阪
「杉本博司」ステューディオ・グエンツァーニ、ミラノ('93, '96)
「杉本博司 漏光」ギャラリー小柳、東京('95, '96, '97, '98, '99, '01, '03, '06)
- 2006 「観念の形 数理模型」アトリエ・ブランクーシ、ポンピドゥー・センター、パリ
「杉本博司 観念の形」マリアン・グッドマン・ギャラリー、パリ
「杉本博司 観念の形」ソナベント・ギャラリー、ニューヨーク('81, '83, '88, '92, '94, '95, '97, '98, '01, '03, '05, '06)
- 2005 「杉本博司 時間の終わり」森美術館、東京(9/17-2006/1/9)／「杉本博司」と題し巡回：ハーシュホーン美術館・彫刻庭園、スミソニアン・インスティテュート、ワシントンD.C.(2/16-5/14)／フォートワース現代美術館、テキサス(9/17-2007/1/21)／デ・ヤング美術館、サンフランシスコ(7/7-9/23)
「歴史の歴史」ジャパン・ソサエティ、ニューヨーク(9/23-2006/2/19)／アーサー・M・サックラー・ギャラリー、ワシントンD.C.(4/1-7/30)／ロイヤル・オンタリオ博物館、トロント(2007/6/2-9/3)／サンフランシスコ・アジア美術館、サンフランシスコ(10/12-2008/1/6)
「杉本博司 観念の形」ガゴジアン・ギャラリー、ロンドン
- 2004 「杉本博司 大ガラスが与えられたとせよ」カルティエ現代美術財団、パリ
- 2003 「杉本博司 歴史の歴史」メゾンエルメス 8階フォーラム、東京
- 2001 「杉本博司 時の建築」ブレゲンツ美術館、ブレゲンツ、オーストリア(9/27-2002/1/6)(能「屋島」9/27-30)／ビーレフェルト美術館、ビーレフェルト、ドイツ(2/2-4/4)／スティルス・ギャラリー、フルーツマーケット・ギャラリー、エディンバラ(8/3-9/21)
- 2000 「杉本博司 建築シリーズ」サンフランシスコ近代美術館、サンフランシスコ
- 1998 「杉本 陰影礼賛」CCA北九州、福岡
「杉本博司 劇場とドライブイン・シアター」国際交流基金日本文化会館、ローマ
- 1997 「杉本博司 三十三間堂」イーストアングリア大学セインズベリー視覚芸術センター、ノーリッチ、イギリス
「杉本博司 ジオラマと蠅人形館」スティルス・ギャラリー、エディンバラ
- 1996 「杉本博司 写真」ストックホルム近代美術館、ストックホルム、スウェーデン
- 1995 「杉本」メトロポリタン美術館、ニューヨーク(11/21-1996/1/14)／ヒューストン現代美術館、テキサス(7/13-9/1)／ハラ・ミュージアム・アーク、群馬(9/14-12/15)／アクロン美術館、オハイオ(1998/4/4-5/31)
「杉本博司 タイムエクスポーズド」クンストハレ・パーゼル、パーゼル、スイス(1/22-3/5)／ヘートクロウトハウス市立現代美術館、スヘルトヘンボス、オランダ(9/17-11/5)
「杉本博司 写真シリーズ 1979-1994」モントリオール国際現代美術センター、モントリオール (6/1-7/30)／「杉本博司」と題し巡回、ヨーク大学アートギャラリー、トロント(9/5-10/29)
- 1993 「杉本博司 写真、劇場、海景」パレ・デ・ボザール、シャルルロワ、ベルギー
- 1992 「杉本博司 タイムエクスポーズド」CAPCボルドー現代美術館、ボルドー、フランス
「杉本博司 海景」カサハラ画廊、大阪('91)
- 1991 「杉本博司 タイムエクスポーズド」佐賀町エキジビット・スペース('88)／IBM箱崎ビル前庭、東京
- 1990 「杉本博司」セントルイス美術館、セントルイス
- 1989 「近作展6—杉本博司」国立国際美術館、大阪
「杉本博司 海景写真」クリーヴランド美術館、オハイオ
- 1977 「杉本博司」南画廊、東京

作家プロフィール

主なグループ展

- 2008 「写真についての写真 メディアムに映り込むもの、1960年より」メトロポリタン美術館、ニューヨーク
- 2007 「戦争と芸術 美の恐怖と幻影」京都造形芸術大学 ギャラリー・オーブ、京都
- 2006 「アーティスト・チョイス:ヘルツォーク&ド・ムロン 抑制された知覚」ニューヨーク近代美術館、ニューヨーク
「直島スタンダード」香川県直島および直島諸島、香川
- 2005 「日本の知覚」クンストハウス・グラーツ&カメラ・オーストリア、グラーツ、オーストリア(6/4-9/11)/MARCO
- 2004 「単数形(時々反復):1951年から現在までのアート」ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ニューヨーク
- 2003 「日本写真の歴史」ヒューストン美術館、ヒューストン(3/2-4/27)/クリーヴランド美術館、オハイオ(5/25-7/27)
「ハビネスアートに見る幸福への鍵」森美術館、東京
- 2002 「ムーヴィング・ピクチャーズ」ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ニューヨーク
- 2001 「スタンダード」直島各地、香川
「ファクツ・オヴ・ライフ:現代日本美術」ヘイワード・ギャラリー、ロンドン
- 2000 「Currents 28 杉本博司」ミルウォーキー美術館、ウィスコンシン
「ゲンダイ 日本の現代美術—身体と空間の間」現代美術センター、ウヤズドウスキ城、ワルシャワ
- 1999 「ミュージズとしての美術館」ニューヨーク近代美術館、ニューヨーク(3/14-6/1)/サンディエゴ現代美術館、ラ・ホヤ、カリフォルニア(9/18-2000/1/2)
「写真の現代:日本への一視点」モデナ市民ギャラリー、モデナ、イタリア
「第3回アジア・パシフィック現代美術トリエンナーレ」クイーンランド・アートギャラリー、ブリスベン
- 1998 「心から:写真のカーコレクターズ・チョイス」南テキサス美術館、コーバスクリスティ(3/6-6/7)/ジャクソンビル現代美術館、フロリダ(6/18-8/16)/マルケット大学パトリック&ベアトリス・ハガティエ美術館、ミルウォーキー(9/7-11/8)/フッド美術館、ダートマス大学、ハノーバー、ニューハンプシャー(1999/1/1-3/14) /モビール美術館、アラバマ(3/26-5/2)
「海は変化する 現代写真における海景」アリゾナ大学クリエイティブ・フォトグラフィー・センター、トゥーソン(3/8-5/24)/国際写真センター、ニューヨーク(1999/6/16-9/26)
「建築の20世紀展:終わりから始まりへ」東京都現代美術館、東京(7/10-9/6)/サン・イルフォンソ学院、メキシコシティ(11/24-1999/4/25)/ルードヴィヒ美術館&ヨゼフ・ハウブリッヒ美術館、ケルン(6/17-10/3)/ロサンゼルス現代美術館分館ゲッフェン・コンテンポラリー、ロサンゼルス(12/18-2000/3/12)/シカゴ現代美術館、シカゴ(4/16-9/24) /ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ニューヨーク
「シークレット・ヴィクトリアン:現代美術家と19世紀の視点」(企画:ヘイワードギャラリー、アーツカウンシル・イギリス、ロンドン)マイノリティーズ・アートギャラリー、コルチェスター(10/17-12/5)/アーノルフィニ、ブリストル(12/12-1999/1/31)/アイコン・ギャラリー、パーミンガム(2/10-4/4)/ミドルスブラ・アートギャラリー、ミドルスブラ(5/1-6/26)/UCLAアーマンド・ハマー美術館、ロサンゼルス(9/20-2000/1/2)
「テイストと探求 1990年代の日本美術」(企画:国際交流基金、東京)ニューデリー国立近代美術館(12/26-1999/1/20)/マニラ・メトロポリタン美術館、フィリピン(2/16-4/3)
- 1997 「欲望と空虚 現代日本の写真」クンストハレ・ウィーン、ウィーン
「時間・視線・記憶 90年代美術にみる写真表現」東京都現代美術館
「見えることの始まり:ミニチュア&小スケールのアート1964-1996」(企画:ICI、ニューヨーク)コーネル大学ハーバート F.ジョンソン美術館、イサカ、ニューヨーク(8/30-10/26)/メリーランド・インスティテュート・オヴ・アート、ボルチモア(11/21-12/21)/オンタリオ・アートギャラリー、トロント(1998/1/28-4/12)/ウィンザー・アートギャラリー、オンタリオ(5/2-6/28)/ヴァージニア現代美術館、ヴァージニア・ビーチ(7/26-8/23)/シアトル現代美術館(10/17-12/12)/エドモントン・アートギャラリー、アルバータ、カナダ(1999/4/10-6-13)/ラグナ美術館、ラグナビーチ、カリフォルニア(7/24-10/10)
- 1996 「プロスペクト96 現代美術における写真」フランクフルト美術館&シルン美術館、フランクフルト
「鏡の間 1945年以降のアートとフィルム」ロサンゼルス現代美術館(3/17-7/28)/オハイオ大学ウェクスナー視覚芸術センター、コロンプス(9/21-1997/1/5)/エスポジツィオーネ宮殿、ローマ(7/29-9/1)/シカゴ現代美術館、シカゴ(10/11-1998/1/25)
「10回シドニー・ピエンナーレ」ニューサウスウェールズ・アートギャラリー、アートスペース&アイヴァン・ドハティエ・ギャラリー、シドニー
- 1995 「目撃者 収蔵品に見る写真」テート・ギャラリー・リバプール、リバプール
- 1994 「戦後日本の前衛美術」横浜美術館、神奈川(2/5-3/30)/ソロモン・R・グッゲンハイム美術館ソーホー、ニューヨーク(9/14-1995/1/8)/サンフランシスコ近代美術館、イエルバ・ブエナ・ガーデンズ・アーツセンター、サンフランシスコ(5/31-8/27)
「Photography and Beyond in Japan-- 空間・時間・記憶」原美術館、東京(11/19-1995/2/19) /ルフィーノ・タマヨ現代美術館、メキシコシティ(6/7-9/3)/バンクーバー・アート・ギャラリー、バンクーバー(10/18-12/10)/ロサンゼルス郡立美術館、ロサンゼルス(1996/2/22-5/5)/コーコラン・ギャラリー、ワシントンD.C.(6/8-8/25)/デンバー美術館、デンバー(10/12-1997/1/5)/ホノルル現代美術館、ホノルル(1/30-4/5)
- 1991 カーネギー・インターナショナル1991」カーネギー美術館、ピッツバーグ
- 1990 「写真の過去と現在」東京国立近代美術館、東京(9/26-11/11)/京都国立近代美術館、京都(11/20-12/16)
- 1989 「連続体と瞬間 リタ・マイヤーズ、杉本博司、ビル・ヴィオラ」カリフォルニア州立大学視覚芸術センター、フラートン
- 1987 「アメリカにおける現代日本美術(1) アリタ、ナカガワ、スギモト」ジャパソサエティエ・ギャラリー、ニューヨーク
- 1985 「記憶の芸術/歴史の喪失」ニューミュージアム、ニューヨーク
- 1983 「ランドマーク再検証:アメリカのビル、構造体、自然形態の現代写真」ベンサコラ美術館、フロリダ(3/11-4/30)/(ヴィジュアル・アーツ巡回プログラムによる助成巡回)サザン・アーツ・フェデレーション、アトランタ(5/30-1985/5/31)
- 1982 「20世紀の写真 ニューヨーク近代美術館コレクション展」西武美術館、東京
- 1981 「ボルチモアの収集 地域のプライベートコレクションに見る写真」ボルチモア美術館、ボルチモア
- 1978 「新収蔵品展」ニューヨーク近代美術館、ニューヨーク

作家プロフィール

主なパブリック・コレクション

ウースター美術館、マサチューセッツ/クリーヴランド美術館、オハイオ/サンフランシスコ近代美術館/シーグラム・コレクション、
ニューヨーク/シカゴ美術館/ジョージ・イーストマン・ハウス—国際写真美術館、ニューヨーク/スミソニアン研究所アーサー・M・
サックラー・ギャラリー、ワシントンDC/セントルイス美術館/ニューヨーク近代美術館/ハーヴァード大学フォッグ美術館、マサ
チューセッツ/ハーシュホーン博物館・彫刻庭園、ワシントンDC/ピューリッツァー財団、セントルイス/プリンストン大学美術館、
ニュージャージー/ボストン美術館/ボルチモア美術館、メリーランド/メトロポリタン美術館、ニューヨーク/ポンピドゥー・セン
ター、パリ/カルティエ現代美術財団、パリ/テート・ギャラリー、ロンドン/ドイツ・グッゲンハイム、ベルリン/ナショナル・ポートレ
イト・ギャラリー、ロンドン/ビーレフェルト美術館、ドイツ/ブレゲンツ美術館、オーストリア/ヴィクトリア国立美術館、メルボルン
/大阪市立美術館/川村記念美術館、千葉/国立国際美術館、大阪/渋谷区松濤美術館、東京/島根県立美術館/千葉市美術館/高松市美術
館/東京国際フォーラム/東京国立近代美術館/東京都現代美術館/東京都写真美術館/ベネッセアートサイト直島、香川/原美術館、東
京/ふくやま美術館、広島/北海道立釧路芸術館/森美術館、東京/和歌山県立近代美術館/他

本資料に関するお問い合わせ 画像請求のお問い合わせ

金沢 21 世紀美術館 広報担当：落合・黒田・岡田

本展担当学芸員：村田・岡村

TEL：076-220-2811

FAX：076-220-2806

〒920-8509 金沢市広坂 1-2-1

<http://www.kanazawa21.jp>

E-mail: press@kanazawa21.jp

広報用画像

※ 画像掲載の際には作品タイトルとともに下記のクレジットをご明記下さい。

1~4のみ © Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi
 その他画像はすべて Courtesy of Hiroshi Sugimoto

1



《カリブ海、ジャマイカ》1980年
 ゼラチン・シルバー・プリント
 119.4×149.2cm

2



《放電場 019》2007-08年
 ゼラチン・シルバー・プリント
 150.5×120.7cm

3



《放電場 042》2007-08年
 ゼラチン・シルバー・プリント
 150×120.7cm

4



《反重力構造》(部分)2008年
 ミクスト・メディア
 サイズ可変

5



《車輪石》古墳時代 碧玉 16.5cm

6



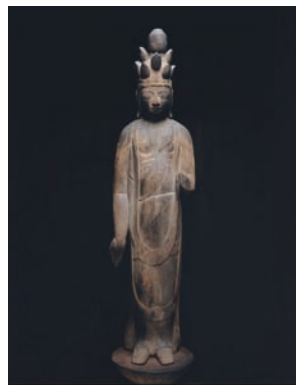
《正倉院 伝来裂》奈良時代 絹

7



《紺紙銀字華嚴経 一卷》奈良時代 8世紀
 紺紙銀字(白金)
 86×110 cm

8



《十一面観音立像》平安時代
 木造 像高107.5cm

9



《文殊菩薩像》(部分)
 鎌倉時代 絹本着色

広報用画像

※ 画像掲載の際には作品タイトルとともに下記のクレジットをご明記下さい。

1~4のみ © Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi
 その他画像はすべて Courtesy of Hiroshi Sugimoto

10



《『解体新書』序図》1774年(江戸時代) 版本
 18×25.4cm

11



《『タイム』誌》
 1926-47年

12



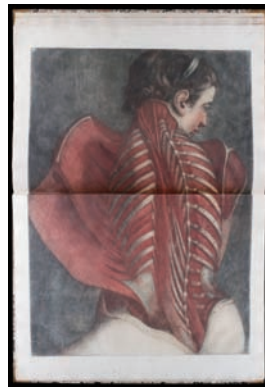
《A級戦犯》1946-48年
 ゼラチン・シルバー・プリント 21×44.4cm

13



《エジプト『死者の書』断片》
 1400 B.C.頃 / 2008年 軸装 麻に著色

14



《第14図背筋図》
 ジャック・ゴティエ・ダゴティ
 『筋肉解剖学完全版』1745-48年
 メゾチント 53.6×37.3cm

15



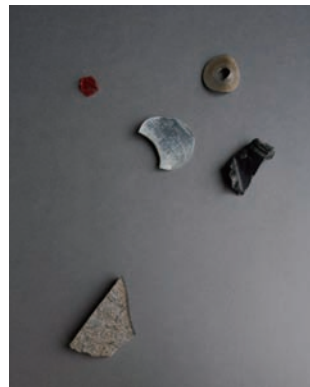
《レンブラント天使来迎図》
 1643年/2007年軸装
 エッチング 26.3×22cm

16



《カール・マルクス》1883年
 ゼラチン・シルバー・プリント
 16.5×10.4cm

17



《ピークスビル隕石》1992年10月9日
 5.3×2.9×0.6cm

18



《アポロ計画宇宙食3種》1969年
 宇宙食、プラスチック
 各36×9cm

展覧会会場図

杉本博司「歴史の歴史」展
会期：2008年11月22日(土)～2009年3月22日(日)

